

新聞記事

2024年(令和6年)11月11日(月)

兵庫ジャーナル



式辞を述べる田中良夫校長

創立75周年・独立50周年記念式典を挙行 県立夢前高等学校

地域の想いを受け継ぎ、
290名が参列

兵庫県立夢前高等学校は創立75周年および、独立50周年を迎え、11月2日、姫路市北部市民センターで記念式典を挙行了。全校生徒181名、教職員26名、来賓や関係者など83名、計290名が出席し、喜びを分かち合った。

式典では田中良夫校長が「本校は75年前、地域の熱い想いを受け、勤労学生の燃える向学心から創始され、地域と歩みを一つにできた。そして、校訓『健康・誠実・敬愛』

の中にも脈々と受け継がれている」と式辞を述べた。さらに、「様々な課題に柔軟に対応しながら、生きる力を身につけなければいけない現代において、夢前高校生であることを誇りに思い、これからの時代を志高く生きていこうではありませんか」と呼びかけた。

独立1回生である同実行委員会委員長(同窓会会長)の浅田忠安氏は「みんなで工夫し、困難を乗り越え、その頑張り、幾多の栄光と、母校の伝統になっている。これらを受け継ぎ、心の温かさや豊かさを育て、そして末永く活躍して頂きたい」と期待を込めた。

3年の釜谷璃久さんが生徒を代表し、「夢前高校の魅力の一つは、台湾との交流や福岡高校との交流など、生徒が主体となった多くの活動です。私たちは、これからも健康やかな体をつくり、他者を尊重し、卒業生のように夢前高校の一員であることを誇ることを誓います」と宣言した。

最後に、地域アクティブライトの生徒と「ゆめさき明神太鼓保存会」による大迫力の太鼓演奏を楽しんだ。その後、5月14日に記念事業として行われた植松努さん講演会思は招く」の記録から制作した動画を鑑賞し、会場は感動に包まれた。